

平成 26 年度 日新基金プロジェクトの概要

① テーマ:「はじめまして 先輩!」～東京グローバル企業見学会～

② 期間:平成 26 年 8 月 7 日(木), 8 月 8 日(金)の 2 日間

③ 内容: SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)の活動にも合わせ、甲府一高の同窓生が社長や副会長として経営し、グローバル展開している大企業への訪問・見学を行いました。1泊2日で東京の本社ビルを4か所回り、有志の生徒がインタビューする形で社長と対談しました。ただし具体的な対談内容は私的な話題を含むため、本冊子内での紹介はできません。また訪問部署の多くは会社内の中枢で、写真撮影禁止区域であり、掲載写真も全行程のほんの一部であることをご了承ください。

学問分野	訪問企業(業種)	役職	氏名	卒業年度
文系文化	(株)日本テレビ(情報・通信会社) 東京都港区東新橋一丁目6番1号	社長 (報道局長)	大久保 好男 氏 粕谷 賢之 氏	S44 (代理)
理系研究	(株)三菱ケミカルホールディングス (新技術・製品開発・販売総合商社) 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号	社長	小林 喜光 氏	S40
文系経済	(株)三井住友銀行(金融会社) 東京都千代田区丸の内一丁目1番1号	副会長	清水 喜彦 氏	S49
理系工学	(株)熊谷組(大手ゼネコン会社) 東京都新宿区津久戸町2番1号	社長	樋口 靖 氏	S45

④ 参加者 生徒 男子 8 名 女子 11 名 計 19 名

クラス 氏名	クラス 氏名	クラス 氏名	クラス 氏名
1712 服部 廉太郎	1210 櫻原 葵	1305 清水 太智	1234 長坂 郁実
1440 吉田 知華	1523 橋田 美幸	1612 長沼 拓実	1617 山本 浩太
1623 内田 輝里	1632 中込 知佳	1629 斉藤 優衣	1701 上野 健一
1704 標 朋哉	1709 中澤 成	1715 小沢 野々香	1718 小澤 友紀奈
1719 小田切 萌絵	1723 高松 葉	1725 田中 千恵	

引率教職員 6名

(教頭) 古河 通也 (学年主任) 武藤 一輝 (同窓会) 大西 勉

(放送部) 名取 由利子 (SGH) 野澤 俊英 (キャリア教育) 標 輝人 合計 25 名

⑤ 成果

キャリア教育とは生徒自身が自分の過去を顧みつつ、現在の自分の状況を分析し、自己肯定感と郷土愛をもって未来を想像(創造)するために今何をすべきか考えさせようとする意識(概念)教育のことです。今回のプロジェクトはキャリア教育の企画として十分に目的を達成するものであり、成果はさまざまな方向に現れています。

山梨県立甲府第一高等学校の生徒による社会貢献活動

(顧問 坂崎一 先生)

平成 26 年度日新基金プロジェクト実施報告書



山梨県立甲府第一高等学校

以下、感想文より抜粋

・日テレを見て感じたことは、一つのテレビ番組を作り上げるにも、たくさんの人手と、時間と創造性が必要だということです。日テレは多くの社員が協力して一つのテレビ番組を作っていました。またこれからは海外に展開するため世界で受け入れられる番組作りを行っていくようです。これには創造力豊かで柔軟な発想を持った人が必要になるようです。大久保社長は(書面を通して)「努力の結果を出せることが一番嬉しい」と答えてくださったので、この海外展開も成功して欲しいと感じました。

・日本テレビ大久保社長代理 粕谷賢之 報道局長兼解説委員長は、「高校時代は多感な時なので、今は多くのことに興味を持ちそれについて深く考えることが大切だ」と、おっしゃっていました。物事を多面的に見る、一般常識を理解する、そうして一つ上の人間になりたいと思います。

・日本テレビの見学では普段見ている番組がどのように作られているか、や、報道の仕組みなどを知ることができました。報道フロアでは24時間体制で「的確な取材」「正確な放送」「本質を見抜く力」を重点に置いて日々仕事に励んでいるそうです。照明の当たっていないテレビ番組のセットは色が悪く、暗いイメージでしたが、和田解説員より、「照明を浴びて、カメラを通した時に一番キレイに見えるように作られているんだよ」と説明がありました。また生放送の収録中に主演者のタレントさんから温かい言葉を掛けていただき、とても感動しました。

・日テレでは普段私たちが見ているテレビの裏側をととても近い距離で見ることができました。ひとつの番組を作るのにとてもたくさんの人、お金が関わっているということに自分の体験を通して知ることができました。テレビは国民に世界の出来事だけでなく、自分たちが暴いたことを的確に伝える責任があることも知ることができました。メディアは国民の信頼を裏切らないように正確な情報を伝えていかなければならない、と感じました。

・日本テレビでお話を伺ったとき、「自分たちが誇りを持って独創性のある番組作りをしている」とおっしゃっていました。自分がこういうものを作りたい、という信念があるから大勢の社員をまとめ、一つにしている会社作りをしていけるのだ、と思いました。一高生の時、強行遠足で完走するということができる強さがあったからこそ、できたことかもしれないと感じました。

・「日テレ」で学んだことは、「華やかなテレビは裏の努力があるから成り立っている」ということです。生放送しているスタジオでは照明があたってキラキラしていましたが、反対側のセットはどんよりしていてオーラが感じられませんでした。やはりキラキラして見えるのは照明の人やカメラの人、メイク・スタイリストの人などの努力があるからだ実感し、だからこんなにきれいなも

のが作れるのだと思いました。

・一日目の初めから、日本テレビというそれこそ知らない人はいないような大企業に行くことが出来ると知って楽しみにしていました。残念ながら社長と話すことはできませんでしたがどんな高校生だったのか、テレビ業界のイロハ、また自分がふだん気になっていたこれからのテレビなどに詳しく答えて頂いたうえ、スタジオや有名な番組のセット、生放送中の番組のスタジオに入れて頂けるなどそこだけで普通なら体験できないような事を多く体験できました。

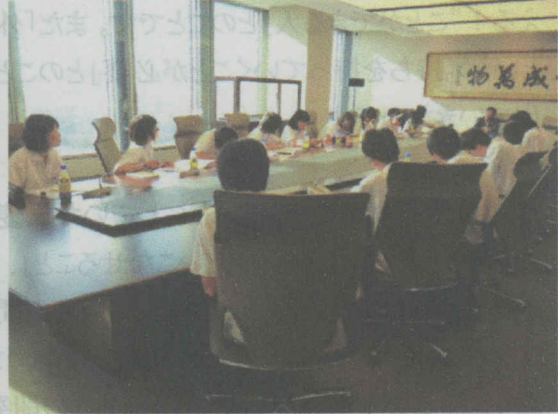
・日本テレビでは、本物の現場、ミキサー、カメラなどを見ることができました。私は、放送部で音を担当しているのでとても良い経験ができました。また、ヒルナンデスの生放送を見学しました。生放送ならではの緊張感を肌で感じることができました。

8月7日午後 (株)三菱ケミカルホールディングス

14:30 より見学開始、先にショールームで製品や開発技術の説明を受けたグループと映像による近未来シミュレーションを体験したグループに分かれた。どちらも素晴らしい最先端の技術紹介で、生徒たちは見るもの全てに驚いていたようだった。近未来シミュレーションはライフ、マテリアルなど3つのテーマから一つを選択する形であったが、他の内容も是非見てみたかった。その後、皇居を一望に見下ろすことのできる役員専用会議室で小林喜光社長と対談した。ここでも多くの生徒の質問に対し、予定時間を延長して丁寧に対応していただいた。



本社ビル前で記念撮影



役員専用の椅子に座るだけで感動



社長の話に聞き入る生徒たち



ここでも積極的に質問が飛んだ



小林 喜光 社長



憧れの大先輩を囲んで記念撮影

以下、感想文より抜粋

・三菱の小林社長は「あいつには負けたくない！というハングリー精神が人を成長させる」といっていました。社長の高校時代から自分が向上するために気持ちの中に持ち続けたキーワードだそうです。私もライバルがいる方が燃えるタイプなので、向上心を持ち続けたいと思いました。

・三菱ケミカルの小林社長いわく、「今後この会社や社会全体が求めていく人材は“自分で考える！”ことができる人」とのことです。また「外国人や男性女性などは関係なく、“負けたくない”という気持ちを持つていくことが必要」とのことです。私も負けず嫌いの性格を生かして社会に出ていきたいです。

・今回、自分的に一番楽しみにしていた三菱ケミカルHDでは、「国際的に活躍するためには最新の情報機器と英語を使いこなせること」、また「専門知識は会社に入ってからでも入れられるので、自分で考えられる総合力のある人間になって欲しい」という話を聴き、どうすればそうなれるか日々の生活の中で考えるようになりました。またショールームでは、普段の生活で良く聞く先進技術の多くが三菱ケミカルHDの開発したものであったことに驚き、また翌日の新聞にその技術が2つも記事になっていて、より驚きました。

・三菱ケミカルホールディングスでは身近にあるものをより良くしていく現場を見ることができました。特にとても薄い太陽光パネルが心に残っています。それは今までのものとは違い、様々な形にすることができ、ビルのガラスなどにも付けられるものでした。東京の高層ビルが多い点を活かしてエネルギーを作り出し、個人だけでなく都市やそれ以上のものにも役立つと感じました。近未来を直接体験することができて嬉しかったです。

・小林社長からは新しいことに挑戦し続ける姿勢を学びました。何も知らないまま外国に行って英語を学んだり、今まで誰もやったことのないことに取り組んだりして、自分で自分の道を切り開いていました。

・私は科学に興味があり、三菱の産業を見るのを楽しみにしていましたが、その技術に大変驚きました。身近にあったペットボトルはや普段使っているボールペンなどにも三菱の科学技術が使われていることに感動しました。

・三菱ケミカルホールディングスでは「KAITEKI」という目標を念頭に、葉からLEDまで幅広くものづくりをしていることを知りました。本当に未来には夢があると感じさせてくれました。そして「国際的な舞台で活躍する力」、「常に負けない精神」などが大切であることを教わりました。

・「KAITEKI」。人にとっての心地よさに加えて、社会にとっての快適、地球にとっての快適をあわせもったもので、真に持続可能な状態。この言葉をもとに、資源の枯渇問題の解決につながられるよう、そして、人々の生活がより豊かに、便利になるような開発をしていました。未来について考えるコーナーは、体験型になっていて一つにモノをつくるのにどれだけの水を使うのか。それを、最小限に抑えるためにどのような技術が使われているのか。工夫がされているのか。実際に手を動かして、見て、考えることができたと思います。

8月8日午前 (株)三井住友銀行

前日に訪れた三菱のビルと三井のビルは、実は隣り同士(丸の内一丁目1番1号)である。平日朝の通勤渋滞で宿舎のホテルから倍以上も時間がかかってしまい、到着が予定より15分遅れてしまった。甲府支店の松山営業部長が本社ビルの正面玄関前で待機してくださっていた。こちらでも相手方のご厚意により、たくさんの見学場所が分刻みで計画されていたため、大変申し訳なかった。グローバル・アドバイザー部長からの世界情勢とグローバル展開についての説明を受けた後、本店窓口業務、貸金庫、ディーリングルームなどを見学させていただいた。特に貸金庫やディーリングの様子は映画の中でしか見たことのない風景で、あまりにも貴重な体験に生徒たちはただただ圧倒されていた。その後、役員専用会議室にもどり、とても美味しい重役弁当をご馳走になりながら、清水副会長と長時間、対談させていただいた。



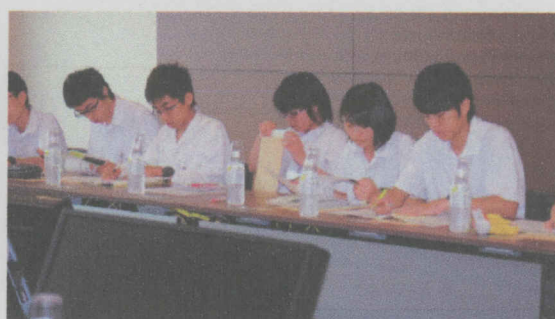
本社ビル前で記念撮影



役員専用会議室



熱心にメモを取る生徒たち



会議室の中央には双方向にモニター



清水 喜彦 副会長



グローバル・アドバイザー部長と甲府支店営業部長

以下、感想文集より抜粋

・三井住友銀行の清水副会長は、「誰もが社長になれるわけではない。私はチャンス、人、仕事に恵まれた。仕事をしていて辛いこともたくさんある。これから40年も50年も携わっていく職業だから自分が面白いと思えて、興味関心の深い事をした方が良いのでは？大学に入ることが目的の高校生活ではない。問題はその先の人生だ。」と教えてくれました。私はそれを見つける為に高校生の中に本を読み、学校外の活動にも積極的に参加していこうと思います。

・三井住友銀行の清水副会長の「InterestingはHappyにする」という言葉が心に残りました。私は、仕事は大変で嫌なものだと思っていましたが、副会長は「仕事だって遊びだって楽しくなければ続かないし、笑顔になれないでしょ？楽しければ笑顔になれて、その笑顔でお客さんに接すればお客さんは幸せになれるよ。」と言っていました。私は「楽しいことは幸せの第一歩」なのだと学びました。

・三井住友銀行に行ってから、まず最初に聞いた「グローバル・アドバイザー」部長の話が印象に残っています。現在の世界経済を的確に分析されている内容もさることながら、熱意のこもった話し方に圧倒されました。自分の仕事に誇りと自信を持っている様子がよく分かりました。私達も将来どのような仕事に就くのか分かりませんが、今回おはなしを伺ったすべての方々のように、自分の仕事に誇りと自信を持った大人になりたいと思いました。

・私たちの訪問のために、わざわざ山梨の甲府支店から営業部長の方が出迎えてくれたことを知り、とても感動しました。会社内のさまざまな部署を案内していただいたときも、その時々、入れ替わり立ち替わりのようにそれぞれの部署で大勢の方からわかりやすく説明をしていただきました。方から昼食のお弁当も、とても高価なものをごちそうになり、本当に最高級の接待を受けているようでした。目の前のお客様を第一にする「おもてなし」の精神を強く感じました。本当にありがとうございました。

・三井住友銀行では、セキュリティ・おもてなし・建物の規模が大きくて感動しました。また、ディーラーの人が1本(1億円)単位でどんどん仕事をしている姿はとてがかっこよかったです。1人で5~7台のパソコンと向き合っている姿は憧れを感じさせるものでした。また、貸金庫を見せて貰ったときは、扉が22t、暑さが1mということにとても驚きました。このようにして守っていることが、顧客にとっても会社の信頼にとっても大切な役割を成していると思います。

清水副会長の話では運命を自分でどのように手に入れていくか、海外で働くには何が必要なのかという、様々な「やる気の出る」言葉を掛けて貰い、良い刺激になりました。

・三井住友銀行ではATMは5か国語に対応しているそうです。また、偽札などのトラブルはよ

ほどことがない限り、一切起こらないそうです。設備がとても整っていましたが、中でも驚いたのが貸金庫です。人の静脈で感知して数は3000個、利用料は3万円から50万円、また4や9といった縁起の悪い数字を含まない、などのお客様への配慮もあり、感動しました。

・三井住友銀行では、電子的なお金の動きを目の前にして、見ている私たちが固まってしまうほどの忙しさでした。しかし、それはいつもより「少し忙しいくらい」だと言われ、一番忙しいのはどれくらいなのか想像すらできませんでした。また、普通は見ることができない、貸金庫の中に入りました。全てを金属で覆われた部屋は、たとえ建物が全壊してもつぶれることはなく、扉は22tもあるそうです。そして一番驚いたのが、建設するときに建物が先ではなく金庫から造ったということでした。

8月8日午後 (株)熊谷組

熊谷組には本社見学だけでなく、土木か建築の現場も見学させて貰えるようお願いしていた。現場はスカート・革靴が不可のため、三井住友銀行で私服に着替えさせてもらっていた。最初に平和島にある物流センター建設現場に到着、作業事務所にて所長から建築物の説明を受けた。ヘルメットを被って幅200Mもある建築中の巨大建造物に入り、これまた映画の世界でした見たことのない作業用エレベーターで最上階へ。東京湾が一望できた。その後本社ビルに移動し、会社概要の説明を受けてから役員会議室で樋口社長と対談していただいた。日程的に最後の対談ということもあり、生徒たちのたくさんの質問に対し、丁寧に対応していただくことができた。我々の訪問の様子は熊谷組の社内用イントラネットでも紹介されている。



建築中の巨大物流センター



作業事務所内で説明を受ける



社員の説明を聞きながら見学



作業用エレベーターに興奮



屋上にて記念撮影



本社ビルで会社の概要説明



ここでも積極的に質問が飛び交う 社長からも事業紹介をして頂きました



樋口 靖 社長



本社ビル前にて「最後の」記念撮影

以下、感想文集より抜粋

・熊谷組では、グローバル化には語学と(異文化との)交流が大切であると学びました。熊谷組の工事現場を訪れた際、その建物がその地域に求められ、いつまでも立派に建つように様々な工夫が行われていることに驚きました。社員の方もおっしゃっていたように、私も“自分の興味のあることは実際にその現場に行って経験する”ことを大切にしていきたいです。

・熊谷組の樋口社長は「甲府一高出身の同窓生は日本全国どこにでも活躍している」と言っていました。それは一高が伝統校であるからだけでなく、社会に出て活躍出来る環境にあったからだと思います。私も先輩方のようにグローバルに活躍するため総合的に長けた人を目指し、自分の意見を自分の言葉で発表できるようにしていきたいです。

・熊谷組では「お客さまにサービスを！」というスローガンで、今ではものづくりのあらゆる部分をサービスと捉える、「建設サービス業」という概念を仕事に生かしているそうです。実際に建設中の現場を見せていただき、それを実感することができました。(中略)本当に感動するものばかりだったように感じます。

・熊谷組の施工実績を紹介していただきましたが、ととても有名な建造物がとても多く驚きまし

た。また国際的な企業での注意することや長く付き合いをするためにどうするのかを知ることにも出来ました。また社長の、(高校生のうちに)「多くの体験をしておいて欲しい」という話は、どの企業でも通じる話ですが、とても大切な事だと思いました。

・熊谷組では「建築の現場には女性も居る」ということに驚きました。私は建設現場というと男性ばかりで力仕事をしている、というイメージだったからです。これからは女性もバリバリ働く時代になると思うので、建築関係もいいな、と思いました。また、2月の大雪の時には除雪のために山梨県に来て協力して下さったとのことでした。私は将来、人を助ける仕事に就きたいと思っているのでこの仕事に興味を持ちました。

・熊谷組では、実際の建設現場を見てより安全に、より使いやすく設計士さんと職人さんが建設している光景を見ました。設計図は完成しても変更点が出てきてしまい実際に作ってみたいないとわからないことがあるのが大変だそうです。

・かわいい「おまけ」の付いた「熊谷グミ」や黒部ダムのトンネルで出た「黒部の氷箭水」など、もたくさんいただきました。私は今度、甲府一高の別の企画で「黒部トンネル」の見学会にも行く予定なので、熊谷組の仕事を事前に知ることができていて良かったと思いました。

総合的に

・日本テレビの大久保社長、粕谷局長、三菱ケミカルホールディングスの小林社長、三井住友銀行の清水副会長、熊谷組の樋口社長と対談させていただく中で、「これからの時代、アクティブでポジティブな人材が求められている」、「指示を待つのではなく、自ら行動すること、そして常に前を向いて仕事をする事」、「総合力を持っていて、それに加えて他の人には負けな得意分野を持っていると良い」、というお話が何度もありました。これほど多様な分野で共通しているということは、社会全体がそのような人材を求めていると考えて良いと思います。

・先輩方には強行遠足などの思い出や現在の仕事に就かれるまでの経緯、また、グローバル展開させるまでの対応など、私たちがこれからの高校生活で一步、いや私にとっては百歩も何百歩も上を目指して頑張っていこうと思えるヒントをたくさん頂きました。そのなかでも、「高校生の頃は感性が豊かだから、今のうちにいろんなことに興味を持つこと」「聞いた話の心や頭に少しでも引っかかったことは、それを掘り下げる」というアドバイスは今でも私の心に強く響いています。

日新基金の活動を終えて（感想文 抜粋集・一部改）

・今回、日新基金プロジェクトに参加させてもらい、これからの人生で一生体験できない経験をすることができました。私は SGH にも参加しているのですが、グローバルに活躍するためにはどのようなことをすればいいのか、ということのヒントを得るためにも、本当に貴重な体験をすることができました。グローバルな人材になるためには、まず様々の事に興味を持つことが大切だと聞きました。高校生のうちはあらゆることを吸収しやすいので、視野を広く持ち情報を入手し、チャンスをものにしていきたいです。また、その興味をそのままにしておくのではなく考える習慣を身につけ、より深く理解することを目標にしたいです。

・「はじめまして 先輩！」プロジェクトを計画するにあたって私は驚いたことがあります。訪問先として受け入れてくれる企業が新聞やテレビでよく耳にするところばかりであったからです。しかも、今回直接お話を伺えるのは、その企業のトップの方々。思うように質問できるだろうか。失礼はないだろうか・・・そんな私の不安をかき消してくださったのが、企業のトップとしての顔を持つと同時に、一高の卒業生としての顔を持つ、先輩の笑顔でした。

・今回の活動を通して私は多くのことを学び感じました。まず、準備の段階からですが、先生との打ち合わせの時に（日程がなかなか決まらず、何週間も経ってから）「各社長さんとの対面の関係で日程はこの日ではほぼ決定です。」と聞いて、先生は私たちの知らないところで動いているということを知り、感謝の気持ちを持ちました。

・この企業訪問で学んだことは、「若いうちの苦労は勝ってでもしろ」ということです。大人はほとんどの人が「学生のうちにしていた勉強は（直接は）役に立たない」と言いますが、私はその苦労が、大人になったら「いい学生時代だった」と振り返れるようになるのだと思います。そうした苦労を惜しまずできる人が今回訪問した先輩方のような人なのだと思います。私もそうした人になれるよう、精一杯苦労していきたいと思います。

・このプロジェクトで私は、先輩方皆さんに共通していることを2点見つけました。1つ目は学力、特に英語を中心として語学の力が大切だ、とおっしゃっていたことです。「グローバル化」という言葉が聞かれるようになり、様々な企業が世界に羽ばたく中で、語学は必要不可欠なものになりました。だから、紙に書く学習だけでなく、実際に話せるようなホームステイなどもしていきたいと思います。2つ目は、どっしりと構えているという印象を受けたことです。私が想像していた人物像と一致していました。その存在が大きくて、社員みんなを包み込んでくれるようだと感じたのです。やはり、リーダーになるような人には必要な要素なのだろうかと思いました。私はこのように人を暖かく包み込むような人間になりたいです。高校生活においてもそのような人になれたらと思います。なぜならそのような人は他人を大切にできる人だと思うからです。人間は一人では生きていけません。だから人に感謝し、大切にできる人間に私はなりたいです。

・私がこのプロジェクトに参加して思ったこと、感じたことが2つあります。1つ目は高校時代の思い出は、大人になっても良き財産になるということです。甲府第一高校は卒業生の団結力が強く、卒業してもいろいろな場面で自分を助けてくれます。特に伝統行事である強行遠足は、精神的に身体的にも自分を成長させることができると思います。そしてそれは卒業して社会に出ても自分の助けてくれるでしょう。話を聞かせていただいた先輩方も、高校時代のことを懐かしそうに話してくださいました。2つ目は語学です。話をしてくださった先輩方は皆社会で使える人材について話をしてくださりました。自分の将来のためには何が必要なのか。そのことを深く考えさせられました。今、SGHの取り組みを行っていますが、そこでも語学について話が出ました。これからの3年間、どのように高校生活を過ごすのが大切だと思いました。

・私はこの2日間で大事な5つのことを学びました。1つめは「前向きさ」です。このことは今回伺った先輩方が共通しておっしゃったことでした。これから更にグローバル社会が発展していく中で、失敗を恐れず挑戦し、また失敗をしてもそれを前向きに捉え、次に活かすために前進していく力、成功を元にそれを更にどう発展させていくかが必要だと思いました。2つめは「ハングリー精神」です。日々生活が便利になっていく今の世の中で、「ハングリーさ」は反比例しているように思えます。全ての成功は「ハングリーさ」から生まれると学んだので、常に持ち続けたいと思います。3つめは「武器」です。企業は今、総合力と同時に、一人一人の個性である「武器」を兼ね備えている人を求めています。私も早く自分の武器を見つけ、磨きたいと思いました。4つめは「好奇心」を持つことです。自分の周りにはまだまだ自分の知らない、解らない、そして面白い世界があるという事実は日常に埋もれてしまって見えませんが、その全てに好奇心を持って今のうちにたくさんの事を吸収したいと思います。5つめは「本質を見抜く能力」です。この能力を身につけると作業の効率も良くなり、無駄なく物事を本当に理解することができるので学びました。失敗しても常に本質を見ることを意識することで軌道修正することができ、自分のすること全てに意味、価値が生まれ有意義な人生を送ることができるのだと思いました。

・今回学んだこと、感じたことは、今後に生かさなくては意味がありません。私は、6・7組ではないのでSGHの活動はしていませんが、クラスで共有していきたいと思っています。この活動に参加できたことに感謝の気持ちを持ち、この活動を通して学んだことを生かしながら今後の生活を送りたいです。

・4社の話を聞き、どちらの社長も求めている人間が以外にも共通点があり、高校生からどんな事を心掛けて生活すればいいかのヒントが見えた気がします。またどちらの社長も強行遠足が高校時代の強い思い出になったとおっしゃっていました。私も今年初めてとなる強行遠足を頑張りたいと改めて思いました。

・今回の活動を通して、私たちは多くのことを学ぶことができました。しかし、課題も見つかったのではないかと思います。先輩方と対面するという場面で、制服をしっかりと着こなせない人がいた。最後まで集中することができず寝てしまった人がいた。先輩方の前で一高生としてのあるべき姿を見せられなかったのが残念でした。

・私のいるこの甲府第一高校から素晴らしい方々が日本中はもちろん、世界中で活躍されているということです。(中略)その方々と同じ高校に入ることができ、そして直接お話を聞いたことはとても幸運なことだったと思います。自分にはまだしっかりとした将来像は出来ていませんが、今回の研修で自分も進路や勉強にきちんと取り組もうと思えました。私もこの甲府一高の生徒として活躍できる存在になりたいと思いました。この研修を通して貴重な経験をさせていただける機会を設けてくださった先生方、取材を許可してくださったOBの方々に心から感謝いたします。

・今回、この日新基金プロジェクトに参加させてもらい、一番感じたことは「一高生で本当に良かった」ということでした。(中略)普通では絶対に会えない先輩方にお会いし、たくさんの事を教えてもらいました。先輩方のお話を聞いて、言葉の一つ一つに説得力があるように感じました。(中略)このプロジェクトに参加した2日間はとても内容の濃い、充実したものになりました。それは「先輩方がとても素晴らしい方々だったから」「先生たちがこのプロジェクトを支えてくれたから」「凄い人をたくさん生み出した伝統ある甲府一高だから」という幸運が重なったからだと思います。自分が今、とても幸運な状況にあることに改めて気付かされ、「もっと頑張りたい」と今まで以上に思うことができました。素晴らしい機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

・今回のプロジェクトで私は学んだことがあります。甲府一高の同窓生が世界で活躍していて、その皆さんが高校時代の経験を今の活躍に活かしているということです。

・私は今回、この日新基金プロジェクトを通してたくさんのことを学ぶことができました。これはこの甲府第一高校の同窓会あつてのことだと思います。ありがとうございました。そして今度は私が今回学んだことを通して甲府第一高校に貢献したいと思いました。

・私の父も甲府第一高校を卒業した同窓生であり、私自身も卒業してから今回のように次に入ってくる後輩たちに貢献できるような先輩、同窓生になりたいと思います。

・今の世界は新しいことで溢れています。それを自分で先に見つけることが出来る人が世界を創っていると思います。だからこそこのプロジェクトで学んだことを活かし、先輩方の後に続いていけるように私も頑張ろうと良い刺激を受けました。自分が甲府一高を卒業して同窓生にな

った時は、今の私のように(後輩に)良い経験をさせてあげられるように協力出来たら良いと思いました。

・私はこの日新基金プロジェクトでとても貴重な経験が出来たと思います。どこの会社も一度は聞いたことがある会社どころか、誰もが知っているような大企業で、そんなところのさらに重役の方々と話が出来るだけということだけで、普通の人には体験できないことだったと思います。またそのような方々が、高校生時代にどんな生活を送っていたか、どんなことを考えていたか、どんな行事に力を入れて頑張ってきたかは、とても普通の生活では知りえない事なので大きな勉強になりました。

・好きでいたからこそ成功したのだと思います。でも、それは誰にでもできることではない。好きな仕事に就いて、自分の好きなことをやるにはやはり今やるべきことをしっかりこなす能力がないとその先には進めないと思います。何事にも興味を持ち、今やるべきことやり、自分で考えて行動できる人間になる。これを心がけ、今後の学校生活を送っていききたいです。

・今回のプロジェクトで改めて一高のつながりの尊さを実感しました。実際、先輩方も現在でも先輩・後輩、または同級生として多方面で一高のつながりを感じられているようでした。そして私自身も今回のプロジェクトに参加でき、貴重なお話を伺うことができたのは、日新基金を与えてくださった多くの先輩方、そして先生、協力してくれた友人たちのお陰だと思います。一高というつながりの中で生まれた企画に参加できたことを感謝しています。私の夢は将来、お世話になった先輩方に今度は「お久しぶりです 先輩！」と挨拶できるように成長することです。そしていつかは後輩たちに「はじめまして 先輩！」と訪ねてもらえるようになりたいです。今回の経験を活かし、一高生としてより一層頑張りたいと思います。